

# 第16回むつ市総合教育会議議事録

開催日時： 令和3年7月1日（18：00～20：00）

開催場所： むつ市 下北文化会館大ホール

出席者： 宮下 宗一郎 市長  
阿部 謙一 教育長  
田中 志昌 教育委員  
納谷 順子 教育委員  
黒木 和之 教育委員

事務局	教育委員会	角本	教育部長
		鷲岳	政策推進監
		工藤	教育委員会総務課長
		祐川	副理事（学校教育課長）
		櫻井	副理事（図書館長）
		畑山	生涯学習課長
		木村	中央公民館長
		金浜	川内公民館長
		二本柳	大畑公民館長
		山崎	脇野沢公民館長
		渡部	総務課主幹
		新田	総務課主幹
		谷川	生涯学習課主幹
		山道	総務課主査
		庵原	総務課主査
		関	総務課主任
		高島	生涯学習課主査
		木村	中央公民館館長補佐
		佐藤	学校教育課総括主幹
		齊藤	学校教育課主任指導主事
		新保	学校教育課主任
		中村	図書館主任



# 1. 開会

**事務局：** 時間となりました。ただ今から、第16回むつ市総合教育会議、教育講演会、大谷真樹氏講演会を開催いたします。

本日は、市民の皆様と御一緒に講演会を聴講していただきます。

講師には、インフィニティ国際学院、学院長であります、大谷正樹氏をお迎えし、「答のない世界でどう生きるか、地域の未来を変える視点と教育」と題して講演いただきます。

講演に入ります前に、むつ市総合教育会議議長であります、むつ市長 宮下宗一郎が御挨拶いたします。

それでは、宮下市長お願いいたします。

**宮下市長：** 皆さんこんばんは。第16回を数えることとなりましたむつ市総合教育会議でございます。本日は大谷先生をお招きして、教育のあり方、根幹から議論を深めていきたいと考えてございます。

私は、何度ものこの話をしているんですが、市長となって初めて学校訪問をしたときに、衝撃を受けたのは、自分たちが、特に中学校の時だったと思うんですが、ほとんど変わらない授業風景であったことに衝撃を受けたという話を各所でお話しさせていただいております。

時代が、世の中が大きく変わっているのに、学校だけが取り残されているかのような漠然とした思いに駆られました。様々な教育行政の中で現場にも足を運び、また、様々な方と意見交換をさせていただく中で、その思いは深くなってきているんですが、変えていく手法手段までには行き着いていないのが現状です。

そういう中で、一冊の本との出会いがありまして、私、出張へ行き、時間があれば必ずブックセンターに寄るんです。そこに、この「世界に学べ」という本が特別コーナーに平積みであ

って、手に取ってみたら、日本の教育のことが様々書かれてあり、買って読んだところ、自分の考えていることがそのまま言葉となって、本として表現されている。これはすごい。いつか大谷先生とお話を聴いてみたいと思っていました。今日はその機会をいただくことになりました。むつ市総合教育会議ということで、これからのむつ市の教育行政をどうしていきましょうかという議論を教育委員会の皆様と深めさせていただいております。本来であれば、様々な自治体はクローズで議論するんですが、せっかくですので、今日は皆様に聴いていただきながら、議論を深めていきたいと思っておりますので、会場の皆様にも御意見聞く機会があると思いますので、是非皆さんも参加していただければと思います。私が中身について言うよりも皆さんと一緒に楽しみにしていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様よろしく願いいたします。教育委員の皆様にも来ていただきましたので、是非、自由なご発言でむつ市のこれからの教育が深まっていくようにしていただければと思います。

冒頭の私からのあいさつは以上とさせていただきます。本日よりお願いいたします。ありがとうございました。

**事務局：** 出席者紹介  
(市長ほか、席移動)

**事務局：** それでは、本日の講師であります、大谷真樹氏をご紹介します。

大谷真樹先生は、1961年、青森県八戸市に生まれ、学習院大学経済学部を卒業後、NEC勤務を経て、ネットリサーチ会社、株式会社インフォプラントを創業、2001年には起業家のアカデミー賞といわれる『アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・スタートアップ部門優秀賞』を受賞されました。

2008年に八戸大学客員教授、2010年からは教授として、また、八戸大学・八戸短期大学総合研究所所長、2011年には八戸大学学長補佐、

2012年から2018年3月までの7年間、八戸学院大学学長を務められました。

大学では、社会人講座「起業家養成講座」の主任講師も務められ、数多くの起業家を輩出していると伺っております。

2019年、教室を持たない完全フィールド型の学校、インフィニティ国際学院を開校され、10年後の世界を変えるリーダー育成に力を注いでおられるとのことでございます。また、全国の過疎地に、オンラインとリアルハイブリッド型寺子屋を1000ヶ所ネットワークする「あしたの寺子屋創造プラットフォーム」幹事長も務めておられます。

本日は、「答えのない世界でどう生きるか」、地域の未来を変える視点と教育、との演題でご講演いただきます。

それでは、大谷先生ご講演よろしく申し上げます。

## 2. 講演

皆さんこんばんは。聞こえているでしょうか。オンラインで失礼します。コロナ禍で、オンライン非常に便利ですが、地方の皆さんと直接議論できないことが残念です。早く収まっていたきたいと思っております。

むつ市では、教育未来を考えているみたいですので、私の方からは、今日参考になるより、20年位のスパンでどう考えたら良いのか、教育だけではなく、教育が未来を開くので、地域がどういう視点でいいのか、一つのヒントになれば良いと感じております。

でかいスクリーンで大変ですけど、お付き合いしていただければと思っております。

後半は、委員の皆さんとざくばらんに会員の皆さんとカジュアルに意見交換できればと思っております。

それでは、画面共有させていただきます。

答えのない世界、まさに今、コロナは2年前にはなかったもので、いつ何か起きるか判らない。世の中の推敲モデルがどんどん変わっていく、

過去に答えのない世界で我々は今、様々な課題に直面している。子ども達はますます答えのない世界で生きて行かなければならない。地方の限界が見えてくる中で、どうやって価値を育めば良いかということで、タイトルをつけさせていただきました。

先ほど市長からあいさつありましたが、(画面で)これ何年前の写真か判りますか。これは、今、明日学校へ行けば同じような風景が広がっています。机で同じ方向を向いて先生の板書、書いたものを写して、記憶してテストで評価。全く同じ光景です。この写真は80年前の写真であります。

会場の皆さん、教育委員会の皆さんに考えていただきたいんですけど、20年後、2041年、皆さんの地域のお子さん達は、どんな人達と地域で暮らしているのでしょうか。ちょっとイメージしてみてください。今年生まれたら20歳になって、この地域あるいは日本でだけ暮らしていただけるのでしょうか？

(動画放映) ちょっと動画をご覧ください。3年前の動画ですが、ちょっと現状を見ていただきたいと思っております。これはよく見る上海の景色です。これは北京です。100周年を迎えました。これはバンコクです。バンコクのビルラッシュは一段落してしまいました。日本より人口の多い、インドネシアのジャカルタ。ここもパンパンで首都移転することが決まりました。韓国は勢いがなくなっていますね。ここはベトナム戦争の悲劇であったサイゴンはこういう感じで、まだまだビルは増えています。カンボジアも悲劇の舞台でしたが、プノンペンも変わって、この画面は古いです。現在は23本建っています。フィリピン。本社がシンガポールあたりからどんどんマニラに移転してきています。シンガポールも成熟してしまっているんですが、金融都市としてその存在感を大きくしています。

(画面で)これは、マレーシアのクアラルンプールのタワーです。これはやばいですね。こんな感じでアジアは、コロナでブレーキかかって

しまっていますが、直前まではものすごい勢いで変化していました。皆さんどうですか。むつ市の中心部は。僕は八戸はハッチが出来ましたが、子どもの頃と余り景色は変わっていないですね。ところがアジアは、さっきのカンボジアのビル3本が23本に変わっている。今日参加されている皆さんは、先生からおそらく、日本は先進国だと教育されています。確かに先進国であったでしょう。(画面で) ちょっとこのグラフご覧ください。バブルが崩壊して日本は、衰退してしまった20年とか失われた20年とか言われますが、この25年GDPドル換算の為替レートグラフなんですけど、アメリカですらこの勢いで伸びている。中国は2000年超えてから急速に伸びてきた。一方我々先進国だと教えられてきた日本は95年頃からほぼ水平。2パーセントはほぼ誤差。ようは成長していない。いつかはインドに抜かれるだろうと、みんな言っていました。(画面で) 名目GDPの捉え方では、抜かれているんです。2008年、データ上は抜いています。中国はガーンと伸び、アメリカも伸びています。これが世界の現実です。(画面で) もっと衝撃なのは、1997年を100とした賃金の世界の変化です。イギリス、フランスなどはどんどん上がっていますが、日本だけは唯一下がっているんです。1997年から貧しくなっている。社会保障の負担が大きくなって、給料が上がらない、ダブルパンチで、今の若い人達は貧しさを実感しているだんろう。そして、僕らが教わってきた地元の良い中学校に行って良い大学に行って良い地元の会社に就けば一生安泰。退職金もらって、年金もらって安心。いわば昭和型の成功物語。それは崩壊しました。2年前、あのトヨタでさえ終身雇用は難しいです、と宣言しています。今までは会社が我々の生活を守ってきたから、周りも我慢してきたわけですが、トヨタが一生面倒を見ることは難しいと言った。あのトヨタが言ったのだから、経団連とか経済同友会の会社も言うはずです。今後昭和型のシナリオは通

じない。ですから実力で、契約で使えていく、そういう働き方が当たり前になっていく。まして、コロナで働き方そのものが変わりましたので、自分のスキルで勝負して食い扶持を稼いでいく、そんな時代になるんじゃないかと思っています。先程のグラフが示しているとおおり、日本は後退国。先進国から落ちている。先ほどのグラフでは、成長していませんが、相対的に後退している。高速道路の追い越し車線をアジアの国々が追い越していく感じです。一人あたりのGDPは29位中間の国になってきました。賃金は唯一下がり続けている。これからはアセアンが主流、その次に来るのがインド、インドを含めたアジア。人口がどんどん増えていくアフリカ諸国。そのあたりが次のグループになるだろうと思います。コロナという予期せぬものでリズムが崩れるかもしれませんが、大きな流れとしては変わらないと思います。日本が足踏みしているこの25年の間に、世の中では何が起きているかおさらいしてみますと、1996年にYahoo、Googleが誕生。Googleがなしでは生活できないと思いますけれど。そして、Googleが世界の知を支配した。検索、マップなどいろんなナレッジを支配した。本が配達されて便利だねって始まったアマゾンが今は、お坊さんまで宅配する時代、あらゆるモノの流通を支配する会社になった。日本は規制がうるさいので、なかなか海外のUberや同じ業種のGrabが国民総個人タクシー状態。スマホで呼べば、勝手に自分の家の車を使って迎えに来て運んでスマホで決済する。日本の場合、タクシー業界潰れるので守られています。世界はUber、Grabがあらゆる物流を変えてきています。時々耳にすると思いますが、今ある職業の4割ぐらいが消えていきますよ。単純繰り返し職業はAIに置き換わり、残るものはクリエイティブになっていくでしょう。あと、将来子ども達は、今ない職業に就くであろうと論文が出ています。

そもそも、何が根本の原因でこの現象、日本

が足踏みしているか、子ども達の変化を起こさなくなっているのか。僕の個人的な私見で著書「世界で学べ」に詳しく書いていますが、僕に言わせれば、150年変わっていない。一斉に同じ所に集め、同じ教科書使って、同じスピードで先生が教える。この根本的な教育システムが変わっていない。優秀な、言うことを聞く軍人を大量に育成する。これには向いていました。古くはビクトリア王朝300年前に植民地の人を動かすために同じロジックで考える仕組みを伝えるために教室、教育が作られた。今の教室はビクトリア朝の時代に作られたシステムです。同じ原理を使って、同じことをいっばいするシステム。これが今の日本の教育システムの原点になっています。戦後は、復興の中で言うことを聞く労働者、しっかり覚えて、正しく繰り返す労働者を大量に作るには確かに効率良くて向いているシステムでした。戦後の復興に非常にマッチしていました。ところが、この25年おかしいでしょ。世の中が変わっていくのに、育成される人材が適合していない。こういうギャップが出てきています。変えれば良いでしょと言うことになるんでしょうけれど、それがなかなか変わらない仕組みになっています。教育現場で新しい指導要領が運営されていますが、いま、始まったこの指導要領は10年前に12年前から議論されたものです。やっとスタートした。議論は10年前にされているんです。皆さんお持ちの 아이폰、13年前に出ているんです。 아이폰とかスマートフォンこの13年、10年ここまで激変しているけれど、今教育現場で教えている10年前から議論はじめた新学習指導要領、もっと目が当てられないのが高等教育。2期6年活動しましたが、そこは、文科省から降りてくるシステムは30年単位でしか変わりません。具体的に言いますと、高等教育ビジョン会議で、今議論しているのは2040年大学がどうあるべきかを議論しています。2040年どうなっているか、誰も判らないです。それなのに、どうあるべきか議論する、教

育行政のシステム、高等教育は文科省、地方の教育行政は教育委員会が与えられた10年位前の議論された学習指導要領に基づいて現場でおこなう。この仕組みはなかなか変わらない。でも、元麹町中学校の工藤先生の本を読んでわかるとおり、実は学習指導要領守る必要はないんですね。細かくテストしろとかチャイム鳴らせとかどこにも書いてないんですね。それから校長の裁量って非常に大きいので、従わなくてもいいんです。法令に反していなければ教育委員会から罰せられることはありません。ただ、現実には校長先生はなるべく事なかれ主義になってしまっている

日本の教育システムが変わってきている。終身雇用が崩壊している。日本が誇るIT企業NTTの初任給は22万円。年俸1300万円はグーグルの初任給。マイクロソフトのAI技術者は2500万円。このように世界は有能な人材を高級な報酬で迎え入れている中で、竹槍で迎え撃つみたいなの22万円やるからあと竹槍で頑張れが日本の現実。

これからどうなるか。未来を予想した教育は可能なのか。

(画面で) これ見てください。2007年の携帯電話です。枠の外に小さい携帯がありますが、これが 아이폰。14年前、このときに日本の世の中はNECとか富士通とかありましたが、ネットに寄せられた言葉は、「確実に普及しないだろうな。」「iphone買うとかどんだけ頭悪いんだよ」「不潔」これが当時の日本の大方の反応でした。だから、誰も未来を予測できない。イノベーションに対して。

(画面で) 皆さんちょっと考えてほしいんですが、子どもを持っている親御さんが受けた教育。20年前です。今の教育があります。今年生まれた子ども達が社会に出るのは20年後。ですから、親の受けた価値観と子どもがお世話になる時に40年のギャップがある。17年でスマホの世界が変わるのに、40年というのはすごいことです。そこをさらに日本の場合は150

年変わらない箱（学校）に集めるシステム。この強固なインフラの上に20年前の価値観でもし教育を考えたら、この40年大河史みないになる。これが日本の現実です。

皆さんの過去の経験や前例から子供達のまさに未来の教育をデザインしてはいけません。僕は本当にそう思います。今は、教育者であります。その前は外部から、民間から来たので、この恐ろしい現実を体感し、気づいてしまった。ちょっと暗い話になってしまいましたが、今度は過去の話ではなく、未来の話をしますが、長期スパンで考えますと、

（画面で）覚悟が必要なこと。まず、いま、前提としてコロナがあって外国の入国が止まっていますけど、来年位には必ず戻ります。戻った前提で考えると外国人は間違いなく来る。色んな場面で。学校も就職も外国由来の人との競争になる。ここまでは大体なんとなく想像できる。現実を感じている。コロナ前までは東京あたりのコンビニの店員はカタカナの文字ばかりで、いよいよ東京の労働人口は外国から担っている、支えられていると実感しました。当てにしている技能実習生とか特定介護とか変な仕組みをいじくり回して確保しようとしています。僕の予想では恐らく、こういう方達は来なくなる。日本は昔は稼げたから来ていたが、もはや日本は購買力から見ると貧しい国になっている。確かに安くておいしい回転寿司があるが、賃金として稼げない。だったら香港とか上海で稼いだ方がよい。今特に不足気味である介護人材とかは中国と奪い合いになります。日本は70万人不足だが、中国は1000万人不足している。桁が違います。当然国内で賄えないからフィリピン人、我々日本人もフィリピン人に期待していますけれど、その辺は中国にお金で持って行かれます。桁が誓うんですね。

この30年で世界はどうなっているのか。

（画面で）この2枚の写真は同じ場所です。カンボジアです。左の写真は赤い屋根で白い建物。これが2018年。1年後の写真が右です。こ

れだけ高層ビルが工事中です。しかもこの工事を行っているのが、ほとんど中国人です。これがアジアで起きている現実です。3年前のカンボジアの動画を見ていただきましたけれど、ビルが3本ぐらいしかなかったのが、去年数えたら23本ありました。そのくらいのスピードでアジアでは建設ラッシュです。

（画面で）これは、上海の道端で食べられるものですが。この写真右側にあるもの分かりますか。QRコードです。この写真は2016年に撮った写真で。僕はこのとき困りました。何が困ったかということ、支払う術がなかったんです。日本は屋台だったら現金ですよ。ところが、屋台の人はいや現金では受け付けません。現金が本物か偽物か僕らには分からないから。というので、クレジットカード使えるのか。いや、使えない。このQRコード読んでくれ。これはウィチャットペイというアプリで中国人は中国に口座があるので、今の日本ではやっと2年位前から普及し始めた決済。ペイペイとかラインペイとかあの類いですね。ウィチャットペイを使わないと払えない。2年前に行った深圳で大道芸人がお金をくれというので、お金どうすればというので、そのQRコード読んでくれと。チップとかも電子決済になっている。これ2016年です。日本がこういうQRコード決済が普及したのは1年半か2年前ですね。

（画像で）この写真は中国とドバイです。2018年。この格好良い婦人警察官。サングラスかけていますが、これ犯人を捜しています。よく見るとサングラスの右側にカメラが付いているんです。これで国家安全保障局のデータベースと繋がっています。そこには指名手配されている犯人の顔の画像データがあって、画像認識で犯人を捜している。この時のニュースだと上海駅で1日700人位逮捕された。もう中国行った方わかると思いますけれど、町中監視カメラが付いています。お店はもちろん、道路もあちこちに監視カメラがあって、要は国民をデータベース化している。顔の画像認識で誰がどこ

にどう移動しているかわかる。怖い国です。

右の写真。ちょっと分かりづらいですが、飛んでいるんです。これ白バイなんです。ドローンによる白バイです。実用化されてドバイで違反するとドローンが追いかけてきます。まるでSF映画のような世界になっています。

(動画で)これはウーバーのプロモーションビデオです。会社からあるビルの屋上に行きます。で、アプリを読む。それでヘリコプターで自宅へ帰ります。下は渋滞しています。渋滞を避けて空を飛んでいく。なんと。パイロットはいません。無人運転。で、家の近くのヘリポートに着陸して、そこから自宅に普通のウーバーを使って帰る。このビデオは3年前の映像ですが、1年半前からすでに実用化されました。メルボルンとシカゴで実用化が始まってすでに運用されています。プロモーションビデオではなくて現実になっているんです。ヘリコプターって高いだろうと思ってますが、タクシーとあまり変わらない料金で提供されている。

(画像で)マイクロソフト19、アップル21、グーグル25、ソフトバンク24、ユーチューブ27、Yahoo!27。これ何の数字かわかりますか。答えはそれぞれの創業者が会社を始めたときの年齢です。マイクロソフトのビル・ゲイツ19歳。アップルスティーブ・ジョブズ氏21歳。ほとんどが大学中退です。GAF Aの創業者はほとんどが20代。皆さんの家の近所の前の20代の人を想像してみてください。そいつらが世界を変えているんだ。イメージできますか。先ほど僕は、ずっと日本が置かれている現状と背景になっているシステム。それらを踏まえてこの国日本はやばいなど思ったわけです。どうしたらいいんだ。今まで学校で教えてきた基礎学力とか。読み書きそろばん。そういうものではなくて、どういうものが必要になるか。どういう人材がこれからこの日本、衰退する日本を救ってくれるのか。地域地方を活性化してくれるのか。そういう点で行動を考え始めた。それでさっきの本を書いたわけです。

たぶん、今までの日本の教育は廊下走ってはいけません、遅刻してはいけません、宿題やらないと怒られます。ルールを守らせる。もちろんルールを守るのは大事です。本にも書きましたが、日本の道徳は非常に高く、素晴らしいもので、全部否定はしないけれど、ただ、今残念ながら世界を変えていっているのは、ルールを守る人ではなく、ルールを変えている人、ゲームチェンジャー。ルールを新たに作るとか、変えていく。今までレコードを買っていたルールをダウンロードするルールに変えてしまったとか。音楽はiPhoneで聞く。部屋で聞くから。持ち歩く。これ、ウォークマンが早かったですね。このようにルールを変える人材がイノベーションを興す。

国を救うのは、国力プラスいかにイノベーターな人間がいるか。イノベーターな人間が新しく会社を興していくと新たな付加価値を提供していく。その辺が変わらないと今の付加価値がどんどん劣化していく。後進国にその価値がコピーされ、我々日本人の価値が減っていく。常に新しい付加価値を作り出す必要がある。これがイノベーターだったりイノベーションなんです。なぜ、日本は弱いのかは、イノベーションを興せていない。20代で起業した若い人材は、イノベーターであり、イノベーションを興している。彼らは、決して標準の優秀な過去の価値観でいう優等生ではなかった。イノベーションを興すようなちょっと浮いてしまう存在からイノベーションを興している。全員が全員ゲームチェンジャーになれたとは思いませんけど、少なくとも変化に黙って従う側にいるか、変化を起こす側、起こしている側に踏み込む勇氣、それらを持つべき、そういう教育を与えるべきである。変改が怖い病なんです。子供達に限らず、日本の官僚もです。前例スタイル、新しくチャレンジして失敗したら減点法で罰せられる。そういうシステムに乗ってますので、減点法では、変化を起こす側に行きたがらない。行く勇氣がない。そういう現象が官僚はもちろん、組



織、民間企業の現場、そして教育の中、あちこちで起きているのがこの現象だと思っています。

少なくとも、ルールを変える側、変化を起こす側に参加するチームで参加するそういう人材が求められている。そういう人材になるような教育が求められている。

僕はA君、B君それぞれがものすごいゲームチェンジャーになる必要があるかと思うと、そうではなくて、A君の良さ、B君の良さ、C君の経験こういうものが、繋がる、繋ぐ、この辺が重要になるんです。誰もが百点満点になる必要なく60点の子がいっぱいチームで課題を解決する。チームで問題解決するような力。今の教育現場でいう探求学習ですが、ああいう総合学習で1時間や2時間でそんな本質的な力つかないでしょ。みんなでやった感があるプログラムで終わる。チームで頭をひねって、組み合わせ作り、それでアウトプットするみたいな学びというのはなかなか今の日本の学習指導要領の中では限界がある。

一方、これからは繋がる力、変化を恐れずに繋がる、挑戦する。そのためには、さっきの40年ギャップ説の???な価値観、あるいは教育現場の先生方の価値観、もっと言うと、パイロット持っている校長先生の価値観。この辺からいっぺんリセットというカリフレームにしておく必要がある。そこが変わらないとずっと負のスパイラルが繰り返される。

学習塾が普及するには、親のための学習塾、親の価値観をリフレームする学びの場がこれからは求められる。子供達はなんとかする、親の価値観を一緒に考え直す学びの場。こういうのを是非、教育委員会とか教育行政の中で親のための学び、ディスカッションする場も是非作っていただければと思います。

僕は大学で一番腹が立ったのは、ビジョンがない、夢がない子達がいっぱい進学してくるのが腹が立つんですけど、そこに関与する教員達が学力を評価するのに、甘い問題やるんです。学長になったとき、何でも持ち込み可にする。

教授陣が、「何でも持ち込み可にするってどういうことですか？それだと正しい答えを覚えているかどうか分からないじゃないですか。」と、教授会で反論する。記憶力を問うよりもいかに、カンニングでも何でもして突破する突破力が大事だろうと言った記憶がある。答えがない時代のこれから生きる術としては、記憶力とか繰り返し能力ではないんです。みんなで知恵を出して突破する力、チームワークであったり、発想力その辺になる。

インフィニティを作るきっかけというのは、津和野にある吉田松陰先生の松下村塾を訪ねたことがきっかけです。悶々として、日本大丈夫かなとかを思っていて、夏休みに訪れた松下村塾で衝撃を受けたんです。そのときの建物はまだ残っています。その小さい8畳間位の部屋で吉田松陰先生は、今でいうフリースクール、農民の子も侍の子も集めて学びあいです。みんなで車座になって話し合う。先輩が教えたり、松陰先生がアドバイスする。学び合いを寺子屋風でやっていたんですね。その20人30人弱の輩出した中から日本を変える人材が、伊藤博文とか高杉晋作も藩の学校から落ちこぼれて逃げるように不登校になって松下村塾に行って世界の話聞かせなさいとか、松陰先生世界はどうなっているんでしょうかみたいなことに、先生は勝海舟から聞いたことを教えた。夜、脱藩した生徒も違法ですよ。ロンドンに命がけて留学し、世界を見てきた見聞してきた松下村塾の熟生が日本を変えていっている。その辺改めて、僕は偶然行ったんですが、坂本龍馬のファンなので、龍馬と西郷さんが密会した温泉に行き、そこから松下村塾が近かったので、行って衝撃を受けたんです。

それは、日本の閉塞感を打破するには、松下村塾のような10年後の日本を変えるリーダーを育成した方がいい。のんびりする予定をやめて、理事長に学校作っていい？それは何？高校。1ヶ月後の理事会で提案したのがインフィニティ国際学院です。これは、世界中学びながら旅

しようというコンセプトで、教室、キャンパスはない、教室に集めて授業するのは諸悪の根源だと思っているので、色んなフィールドで、色んな人と接して、色んな学習するような学校を作りたい。それでキャンパスをなくしました。特に日本人が弱い、英語で最初にグローバルや合わないといけないので、フィリピンに関連施設がありましたので、フィリピンで徹底的に全寮制で英語を使ったディスカッション能力を高める授業を1年目に徹底的にやった。2年目は、アジア、アフリカ縦断、ヨーロッパ、インド、ネパール22カ国をモンゴル入れて旅する予定でした。3月になってコロナが大変だということになって、泣く泣く2年目のプログラムを国内の研修に切り変えました。ただ、西表島で電気がない生活4週間だったり、北九州では、福祉法人の協力を得て老人ホームで、単なる見学ではなく4週間持ち物、世話を含めて全部体験させて、命のことを考える。日本での刺激を受けるような多様な学びを実践した。

今年は、旭川で英語漬けのプログラムやっています。来週は僕も旭川に行って生徒と大雪山に登る。2泊3日山の中でテントの中での生活をする。そういうプログラムを用意した。この春途中で編入した4人が卒業しましたが、3年目は全くそれぞれ個人の進路に行く準備をします。春に卒業した一人は吉本興業に入ってライブで1位になりました。一人はカナダの優秀な大学に行ったり、もう一人は女の子は日本に残ることになり、上智大学に入りました。何も、学習塾で高い偏差値を取って有名大学に行くというルートではない方法もあるわけです。このように総合型選抜では、どんな対戦をしたかどうということを学びたいかちゃんとプレゼンテーションできればいくらでも受け入れてくれる大学はある。受験状況が変わり偏差値主導主義からどんどん統合型に変わりつつあります。私学の半分50%位は統合選抜です。早稲田慶応でも5割近く統合選抜です。逆に一般選抜で行く方が厳しいです。ところが、その受験情報が地

方にはなかなか来ません。特に海外進学は英語が出来れば、あとは小論文で行けちゃうんです。基本海外の大学は来る者拒まずで、入るのは楽、ただ卒業厳しいですけど、そういう海外の進路情報も教育現場に伝わっていない。これは地方の限界かなと思います。

今日はせっかくむつ市に呼ばれましたので、むつ市として考えてみたいと思います。市長、教育委員も皆さんも色々考えを聞きたいと思っているんですけど、(画面で)2045年今55000人に人口が37000人になるだろう。これはある程度確定した未来ですよ。いきなり突然子どもが亡くなったり生まれてくる子どもが2倍に増えたりする訳ではなく、ある程度予測が出来る。流出も予測できる。、むつ市に限らず、全国で起こることですが、3軒に1軒が空き家になってしまう。放っておくと廃墟になる。いまだに日本人はマイホーム信仰で新築家を建てたい。いるんですよ。この辺は全く理解できない。

今、コロナで、ストップしていますが、2030年のインバウンドは6000万人になるだろう。このあとオリンピックでダーッと行っちゃいまして、6000万人だと数年前の予測だったんですが、恐らく、コロナで大打撃観光産業受けましたが、恐らくワクチンが広がったり、収束すれば、日本は人気がある国ですから、インバウンドは復活すると。さっきも言いましたが、50人に一人は、外国出身、外国由来、留学生の労働者の状態でした。特に新宿区の成人式の45%が外国出身、外国由来。そういう現状だった。2年前。これから何が起きるかという、皆さんの職場の同僚、商売やっている方はお客さん、住んでいる近隣に外国の方が引っ越してくる。25年後には顕在化する。いやでもグローバル化は進む。むつ市まで本当に来るのか。逆にそういう労働力がある程度来ていただかないと、受け入れる土壌を持たないと人口がどんどん減って社会インフラが維持できなくなっていく。むつ市は人口多いですから、新

郷村とか田子町とか限界集落化していくのが目に見えている。

どういう逆転ホームランを打つかという発想が必要になってくる。グローバル化は避けられないから、グローバル化になる前提で、教育、社会インフラ、産業構造あるいは観光の施策、その辺を考えていく必要があるかと思えます。

そんな暗い話ばかりして、それじゃどうすれば良いか。まずは、皆さんがイメージを広げる作業をしていくつもりです。これから自分が、僕らとか、僕らより年配の方も先が短いので、良いかもしれないですが、これから残る若者、市長も若いですけど、若手、子ども達のことを考えて、これから彼ら、子ども達が生きる場所こういうものを、さっきも言った、20、30年前の価値観とか自分の経験の延長で考えないでいただきたい。想像をさらに、従来であれば、せいぜい青森市にしておくか、仙台とか、東京かという発想だったと思うんですけど、日本のとどまる事すら、まず、リセットしていただきたい。逆にそうしないと危険です。もちろん僕は海外とか首都圏に行って戻ってくるのがベストシナリオです。ただ、世界を知らないで、むつ市に留まってしまう。これは世界から置いていかれてしまう。気づいたらどうしようも無い状態になってしまう。そうなりつつある自治体いっぱいありますよね。俺たちは今までのままで良いんだという長老の老害の影響で変わらない派に同調するか。そして何も言わなくなる。言わないと結果的に茹でカエル状態になってしまう。

ニューシネマパラダイスって映画。あの小っちゃいイタリアの島で同級生たちが残るそして老けていく訳ですけど、一人、実際に他へ行って言われて行って大成功して帰ってきて戻ってきたら自分の仲間はまだ老けて。そういう映画ですけど、本当にニューシネマパラダイス化するじゃないか。もう本当ガラパゴス化は日本全体がガラパゴス化すると思って。僕はガラパゴスは自然豊かでいいのかなと思うけどキ

ューバ化すると思って、キューバっていうのは本当昔の古い車がそのまま残ってますね。

そのグローバル教育ってじゃどうすればいい。いやいやむつ市では無理じゃないのみたいなことを言う人がいると思います。ただ僕はやり方が幾つかあると思って、まあ昔で言えば読書ですね。でちょっと映画っていう言葉自体も何か昭和っぽいですけど、今であればユーチューブだったり動画それを通して様々な自分が知らない世界を知ることが出来る。このコロナで凄いや、ある意味ポジティブに良かったなっていうのは、オンラインを有効性っていうか、オンラインを使った繋がり方がみんな実感した、あるいは、今日もそうですよね、僕は神奈川から今繋いでますけど、オンラインでこんなことができる、あるいはオンライン使えばどこでもドア、むつにいながらアメリカでもアフリカでも行けてしまう。そういうことが分かったっていうことがある。これはある意味、教育にとっては非常に良いインパクトだったと思うんですね。僕らも本当は二年目海外行く予定でしたから行く予定だった、例えばザンビアとか色んなところと日本に生徒がいながらにしてオンラインでつないで、色んなグループワークをしたり、あるいは普段、逆にリアルには行けないイスラム諸国にいる日本人と繋いで、現地の様子とか、なかなか我々イスラムっていうのはこう先入観を持ってしまってますけど、イスラムの良さとかそういうものを生の声でオンラインで話をする。オンライン世界旅で急遽やったんですね。コロナで行けなくなったんで。毎日世界中繋いで生徒はオンラインで世界を旅した、そういう体験をしています。なのでまあ僕はそのコロナでよく分かったこと、そのまま実はむつでも実現できるわけですね。もちろん図書館に行って本読むいいですけど、オンラインを活用した繋がる学び、さっきこれからはつながることが重要ですよ僕はお話したんですけど、まさにとどこでもドア、そして今回、ギガ構想で一人1台タブレット端末が支給されましたんで、これを使わない手は

ないですよ。あれをま文鎮があるにしてみましたら本当悲劇。これはもうまあこのコロナで前倒しされましたんで、チャンスとして行かせなきゃいけないだろうなっていう思いです。

僕はそのかねてから自分が気付いてる事象、そして問題課題これをずっと心の中で悩んでいました。インフィニティ国際学院、その結果一個作ったんですけど、とはいえ、インフィニティって定員が十人とか学年十人なんで最大でも三十人ぐらいしか救えない。世界に羽ばたかせることはできない。じゃあ、残された地方の子達はどうなるんだっていう思いをずっと強く持っていました。で、悶々としてたわけですけど、去年の十一月にスタートしたプロジェクトがあります。先程、司会でご紹介いただきましたけど、「明日の寺子屋」。これは僕のその課題、これかなり個人的な悩みだったですね地方ないがしろにしていいのか？自分の国境の子たちを見捨てて、そんなインフィニティの子たちだけ作っていいのか？っていう個人的な悩みを解消する。そして、地方、人口三万人の場所って一千か所あるですけど、それらのところっていうのは学習塾もなかなか成立しない、商売的にですね。そういう子達って学びの場がない。あるいは不登校になってしまったこの居場所がない。そういうところを解消したいということで、地方の教育格差を解消するために明日の寺子屋プラットフォームというプロジェクトを、去年の11月にスタートしました。これは全国千か所にそういう学びの場を作ります。そしてその場にさっきの松下村塾じゃないですけど、リアル例えば八畳間に子供達が集まってタブレットを運営してアプリかとつながるとか、全国一斉に同じゲームをやる、課題をやる、ディスカッションするみたいなハイブリッドな学びをすることにしました。もし興味あったら、「明日の寺子屋」で検索してほしいですけど、この発起人は僕と文科省の「トビタテ！留学ジャパン」コロナ前の時点で九千人近く海外に民間の資金を使って留学させている国家プロジェクトであ

りますけど、これのリーダーの船橋力さんと僕で、いやいやその地方の教育格差を何とかしないと、いくら海外行けって言ってもそのプールはできないでしょう。あいにく地方の子は海外の情報なく、地方のつながりの場、あまり多様性がない中で選択肢が狭まってますということで意気投合しまして船橋さんの力とか、コーチングの本間先生とかエティックの宮城そうか、リクルートの協力も得てスタディサプリを格安で提供してもらって、実現しました。この寺子屋、4月に4校、この七月に20校ぐらい開校するんですけど、北海道そして青森県も、まあ、僕の関係者の協力を得て南部町でカフェと併設の「学び時」っていう寺子屋、そして三沢市でも商店街のあたりを使った寺子屋を準備です他にも京都の焼き肉屋の閉店した店が寺子屋になるとか、鹿児島のと論島ではゲストハウスの1階が寺子屋で、こういう地方で塾だけでは成立しないけど、他のカフェとかゲストハウスと兼業で子供達の場を作るようなプロジェクトがスタート。こんな感じですね。オンラインで繋がったり実際に部屋に集まってみんなでディスカッションしたり、ユニークなのは、さっき僕は親の教育が一緒だって言ったけど、親にもこうやって集まっていただいて、全国と繋いで親のディスカッション。まあ、こういうことをやっています。これによって、今まで地方を見ると学び場がないとかチャンスがない議論も、できないみたいなものが全国レベルで子供達も繋がれる。そして、教材も最先端のプログラミングとかシステム系の教材もあったり、強化学習もスタディサプリさんの協力を得て非常に安く動画で自分のペースで学べる。そして、親達もネットワークは作れる。こういう学びの場になっています。ぜひ、今日のですねこの議論の後半是非ね、このむつでもこういう世界につながるどこでもドア付きの学び場を是非整備していただきたいなっていう風に僕は本当に心から思っています。それによって少しでも子供達のこう視野が広がって世界に興味を持ってもらって本当の

動機付けを持ったグローバル学習、僕は英語やりたい私も海外行ってみたい、だったら奨学金探したいと。今、全部ね可能性を子供達はもう何か興味がないから開こうともしていない現実がある。世界に目を向けるきっかけをこういうどこでもドア付きの学び場で実現していただきたいなと思っています。

今、皆さんちょうど改革の議論されていると思いますが、本当待ったなしです。もう一本動画を見ていただきたいと思っています。この動画は、ちょっと有名な動画なんですけど、おそらくもう既に現実になってますので、今の子供達が働く世界の環境はこういう状態だと。(動画を見ながら)今の倉庫も人がいませんでした。このトラックの運転手、トラクターの運転手はいないです。分かります？乳搾りもそうですよね。これは、3Dプリンターで家を作ってます。なんとこの家は24時間で完成しました。これは実験映像じゃないです。これは1台の車だったのが13年後には馬車が1台変わっている。今、子供達は準備できてますか？っていうメッセージがありましたね。ということで、今動画見ていただいた世界で子供達は働かざるを得ない。ですから、もう、今皆さんの教育現場の目の前のこう音声聞こえてます映画聞こえてますでしょうか聞こえてる前提で話します最後の僕のメッセージは、さっきのどこでもドアじゃありませんけど、世界と何らかのオンラインの目からつながってほしい。その上で自分の地域を子供達が愛してほしいと思ってます。やっぱり子供たち知らないだけであって、知ると興味を持つし、どんどん視野が広がって学びが豊かになる。子供達は多分思ってる以上にリアルの世界っていうのは大きくて広くて興奮に満ちています。そういう子たちが世界視点で自分の田舎を故郷を見ると、より自分の故郷が好きなる。素晴らしく誇りに思えるだろうと思ってます。これ最後宣伝でさっき市長も紹介していただいた本は、「世界で学べ」。これ買っていただくと印税はフィリピンのまずしい子供達に寄付されま

す。是非買っていただければと思います。

私からのお話は以上となります。

【休憩】

### 3. ディスカッション

**事務局：** それでは、ディスカッションに入ります。

このあとの進行は、むつ市総合教育会議議長であります宮下宗一郎むつ市長にお願いしたいと存じます。

宮下市長お願いします。

**宮下市長：** そろそろ。お時間になりますのでディスカッションに行きたいと思います。

今日は、あっという間に時間が過ぎてしましまして、大変貴重なお話を拝聴させていただきました。まず感謝を申し上げます。私、市長に就任したのはちょうど7年前なんですけど、その時から、やっぱり世界のむつ市を目指そうというようなことを申し上げてきたつもりです。そうした中で、さまざまな施策を展開していたんですが、教育の分野でも、改めてその思いを、今日の講演を聞いて深くしたところでございます。

日本を取り巻くあの状況っていうのをやはり正確に理解をするということが必要だと思いますし、またその中で、教育の立ち位置、これがどの辺にあるのか、どうして行かなければいけないのかっていうことを、緊張感を持って危機感を共有するということがまず必要なんだろうという風に思うんです。もう一つはですね、さりながら現場を変えるっていうこと自体もすごく難しさ、これがあります。実際今日もですね恐らくその二十年後の未来の話をしようという風にあの学校の現場に投げかけても実際学校の先生方っていうのは今日忙しいので今日の二時間の部活動のことのほうを大切にします。これは止むを得ないことだと思うんですが、それがやっぱり今の現実だという風に思うんですね。そういうことを考えていっても今日のお話

っていうのは私たちその教育行政に携わる者にとって非常に重要な指摘がたくさんあったと思っています。少し身近の話をする、今ワクチンの接種が、全国で進んでいます。むつ市はですね、自分たちのことをこう前面出すわけではないんですが、スムーズに行っていて、全国でも恐らくトップスピードで進んでるんですが、これ何をしてるかと言うと、実はルールを自分たちで作ってるんです。ありとあらゆる細かいルールをですね、国のルールは一定ある意味やらなきゃいけない部分っていうのはありますけれども、それ以外の細かいルールをですね、ともかく自分たちで考えて作っているということなんですけど、その結果として、ヨーイドンで競争した時に、かなり先に進んでいるというような状況になってます。逆に言うんですね、これできるんですよ。むつ市でもという言い方するとあれですけど、その能力があるかないかと言えばあってですね、やり方さえ、手法方法さえしっかり確立していけばどんなあの自治体でもそういうことはできる。まして、やっぱりその可能性のある子どもたちのことですから、これはですね、公教育の分野あのグローバル化に向かっていく日本を、支えていくっていうことは、司法さえ確立できれば必ず出来ると、私は信じているんですね。子どもたちの力を信じていると、大人ができるっていうことではなく。子供達の力を信じてるということはありません。そういう風なある意味信念に基づいて少し私の方から今日のその先生のお話についてのご質問させていただきたいと思うんですが、やっぱり話を聞いていてもきっとですね、「いや、そうは言っても」っていう人たちが多分たくさんいて、現実にはその校長先生方もいや親との関係の方が大事だと大変なんだよ。大事なんじゃなくて大変なんだよとまあ根本的にこう変えるってことなんていうのはなかなか難しいんだよっていう意見の方が多分体制を占めるはずだと教育委員会の先生方もきっとそう思っていると思うんですね。でも変えなきゃいけない中で

行けば公教育っていう文脈の中で、今先生がおっしゃっていただいたことをどう実現していくかっていうのは凄く大切だと思っています。私その中でですね。先生の本をよく読んであの読ませていただいて部分的な話なんですけど、やっぱり英語教育っていうのも凄く一つのそういう中では要素としてあると思うんですね。トレーニングベースで人材育成ベースでグローバル人材を作る時に、今の英語教育ではなかなか難しいところあるよね。っていうのは自分もそう思っていると。ニューヨークに2年間行って、例えば、バックくださいっていうことすら発音がちゃんとできなくて、コンビニでおばちゃんに怒られて最初に。そういう経験があるので、これは得意だったはずなのに出来なかったっていう思いもあってですね。そういう意味では少しですね、公教育の中で今のグローバル化対応するとグローバルな人材を作っていくということの中で英語教育について少し先生から、お話をさせていただきたいと思うんですけどいかがでしょうか。

**大谷氏：** はいありがとうございます。英語をそのまま大事ですけど、本当はもっとよく言うと英語で何かをする英語で話し合うとか、英語で説得する、英語でプレゼンテーションできるくらいじゃないと、本当は世界とは渡り合えない、とは言っても、その辺は、日本はもう周回遅れなんで、まあできることから考えようと思うと、恐らく、今各地では、ALTの先生を配置していると思うんですね。もちろん生の本当リアルな物理の先生がいるのも良いですけど、例えば同じ一人の予算、結構高いですよ。ALTの先生って。負担無いんで、例えば、僕らはフル活動してのフィリピンのテストでその第2外国語相手の免許持った先生達とインフィニティの子はマンツマンでオンラインでやって。ものすごい安くしかも1対1とかもちろんグループレッソンの時もあるけど、何だろう、一人雇って数十人以上かな、プログラム化できるんですね。例

えば、普通のその時間の中はリアルALTの先生だけど、例えば、放課後のグローバルクラブみたいな英語クラブみたいなを作ったら、そこはフィリピンの先生とオンラインで遊んでもいいじゃないか。すると、そんな高い予算じゃなくても生きた英語が学べる。どうしても時間内でかつの先生もピンキリなんですよ。申し訳ないけど。だったら、しっかり教育者としての免許を持っている英語の先生をオンラインだけでちゃんと活用した方がいいかな。そうすると、時間的にオンラインなんですよ。融通つきやすいですね。例えば、むつ市の小学校何校あるかわかんないですけど、A小学校、B小学校、C小学校、同時にフィリピンと繋いで、放課後英語クラブみたいなものは、フィリピンのオンラインALT教育、同時に出来ちゃう。そういうオンラインならではの技も使えますよ。遊びでいいと思ってるんですよ。強化学習っていう遊びの延長で英語に興味を持ってもらって、フィリピン行ってみたいとか、アジア旅してみたいとか、現地の中学、高校との交流も、実は、うちら学校の方で八戸学院の方で提供しているんですね。フィリピンの学校との国際交流。今はもちろんコロナで行けないし、リアルでもなかなか行くためにはねお金かかるんで、いけない家庭がいっぱいいたんですけど、ど今オンライン、本当に簡単に現地の子10人ぐらいと、日本の折り紙を教えたり、向こうのなんかお話を聞いて結構楽しくやってます非常に安上がり。こういうのは今だからこそできるんで活用されて、かつ、地理的な制約全くないですから、むつの方だろうがどこだろうが、光ファイバー通ってますよね。全然問題なくストレスない。

**宮下市長：** ありがとうございます。本当にですね、今日のお話だけでたくさんヒントいただ

いております。ALTの先生も、小学校や中学校で中学校の方は比較的教科の先生がしっかり対応されていると思うんですけど、小学校だと、殆ど日本人の先生は、日本語でやっている、ちょっと単語言うだけっていうもったいない状況が続いてる部分もある。それは我々の問題として解決しなきゃいけないですし、やっぱりその費用の部分とかでもオンラインの活用っていうのはこれから我々でしっかり考えていきたいなという風に思っています。もう一つですね、私だけ話すわけですから皆さんにもこの後ご意見をいただきますけれども、凄く本以上に今日は刺激を受けました。着想の一つとして、色々着想があったんですが、一つとして、やっぱり公立の中学校小学校、小学校はそうでもないかもしれない。中学校のあのウィークポイントっていうのはやっぱり高校入試にあるような気がしますね。高校入試をしっかりと改革していくということがすごく大事なことなんだなっていう風に改めて先生の話で考えさせられました。もう一つは、やっぱりキャリア教育もあの地元とか日本とか来る人っていうのに拘らず、やっぱり世界中のそのむつ市出身者とか様々な人達にオンラインでやるっていうことはこれもの凄く当たり前のようにできるなということですね、今日の講演を聞いても思いまして、是非そういうことはあの進めていきたいなという風には思っております。あの私からは以上とさせていただいて、それぞれ教育委員の皆様から、今日の感想とそれからあの議論を深めさせていただきたいと思います。先生よろしく願いいたします。まず田中委員からお願いできますでしょうか。

**田中委員：** 先生、今日は大変貴重で、そして楽しいというか、興味深いお話を伺えて、本当に感謝しております。

私の方からいくつかですね、今日の講演に関してお聞きしたいこととかありますので。

まず、最初にですね、日本の物価に関して話された時に、何日か前に東京ディズニーランドの入場料が実は世界で一番安いということを報道されていました。つまり、日本がどんどん安くなっているというのをつい2、3日前のテレビで見たばかりで、全くリンクしてると。同じようなその物価、賃金とかの現象が表に出ております。その曲は？あの日本っていうのは一千四百兆円とかあの一千何百兆円もの預金がある国でこのギャップがですね、あの世の中を決して良くしてないのかなという風な感想を先程の表から感じました。で、今あのグローバル化に人材を作るための教育について、市長の方から言語力ということ、英語力ということを言われていましたが、英語力の他に、どのようなことを子供達に興味を持たせるために話したりとか、指導したりしているのかちょっとお聞きしたいと思います。

**大谷氏：** はいありがとうございます。もう今、僕は小中は義務教育で、基礎力がめちゃくちゃ重要なんでこれはもう大事にしたいけど、中学校の中盤ぐらいから、やっぱり探求系、その後高校でプロジェクト学習とかどんどんやるためには、答えを教えてもらう学び方を変えていかなきゃいけないですね。そしたらやっぱりそれまでは先生が正解で、教科書に答えがあつてみたいな。そういう学習スタイルですけど、学習スタイル自体を問いを立てて、みんなで議論するとか、そういう学び方ですね、教科書っていうのを学び方を徐々に変えていく。それは、総合学習だとは思んですけど、なかなかそこはね、公教育だと時間的な制限とか限界がある。あるいは、先生保護者の考え方や答えは何ですかみたいな親もそういうのを求めます。何か指標を求めますよ偏差値もそうです。内申書の評価。そういう発想を、さっき親の学び方が必要ですよっていう話をしたんですけど、全体で変えていかないと駄目あと。僕はやっぱり、日本の

誇れる学力、数学、算数です。これはあの日本の高校前半ぐらいの数学のレベルが、海外だと大学クラスです。今、海外のコンピュータサイエンス学ぶとグローバル人材で、世界中通じるんですよ。じゃあ、ヨーロッパとか東ヨーロッパのコンピュータサイエンスの学部に入るに、どのぐらいの数学旅行が必要かという、日本の高校受験中学生ぐらいの能力で十分で勝てるそのぐらい日本のレベル全体が高い。数学、これは生かした方が良い。グローバル人材の近道は、数学をちょっと頑張つて、今クラスで、英語力をつけて、コンピュータサイエンスとかAIとかそっち系でしたら世界と戦える人材はすぐ作れます。本当海外は数学弱い。釣り銭計算できない人いっぱいいますからね。店やコンビニ行って、釣り銭、千円プラス二十円ってこれなんだみたいな。なんで千二十円くれるんだみたいな。そういう数学リテラシーっていうか、その辺は日本はすごい優秀ですね。やっぱり世界に興味を持つことを、どう動機付けしてあげられるか、さっき言った、教科の時間以外の総合学習あるいは学内グローバル化みたいな、ちょっと世界の話聞こうみたいなところの入り口を作ってあげるのが重要かなと思います。すると、興味を持った子達は勝手に学びますよ。調べますよ。それぐらい。ググりますしユーチューブで探すし、インスタでタグを探しますよ。教えるっていう発想はやめた方がいいです。必要なスキルを教えあつて動機を与える。そういう機会をいかに多く作ってあげられるか。僕ら、インフィニティは、全然答えも教えないし、決まったカリキュラムを与えないです。テーマを与えて自分らで考える。それに対して、以上です。

**田中委員：** ありがとうございます。もう一点ですね。実は、うちの娘がですね、高校時代にCAになりたいというふうに、高校の先生に言ったらですね、全否定されました。なれる訳ないんだから、こんな学校に行きなさい。と、指導の中で、そのそうなりたいた言ったら、そういう



風になれるような方向での導きがあってもいいような気がしたんですが、全くそうじゃなくてですね、学校の先生たちの都合で進学を決めているような部分が私は感じられてですね。結果的に、娘は先生の意見を無視して、私たちが考えた学校で、実際にCAになったんですけど、それは、もしあの時、先生が駄目だって言って、こっちが従っていたら、夢は実現できなかったんですね。だから、そういうところの、指導者側に対する我々のアプローチというのにも必要になってくるのではないかなという風に思ったので、質問させていただきました。

**大谷氏：** はい、むつの教育現場はどういう仕組みになってるか分かんないけど、やっぱりどうしても過去は、有名大学とか国公立への進学が、その学校あるいは先生の評価になってた面が強いですよ。それで子供の20年後の未来決められちゃったもんじゃないね。さっきの四十年のギャップもね、子供に与えちゃいけないと思うんですよ。だから、教育委員会の評価制度、昔の名残があるんであれば、そこは教育委員会でお話ししていただきたいし、一番指標と言いますか、評価の価値観を是非むつ市モデルみたいなね、そういうのを皆さんで作っていただければいいかなと思います。

**田中委員：** ありがとうございます。以上です。

**宮下市長：** 田中委員ありがとうございました。続きまして、納谷委員からお願いします。

**納谷委員：** 先生、今日は本当に素晴らしいお話ありがとうございました。私、まだ今ある中学校に通っている子供がいたりとか、もう卒業して、何年か経つ子供もいて、このむつ市の教育委員会で、ジュニア大使という授業がありまして、アメリカの姉妹都市である、ポートエンジェルズ市に、実際子供達が出向いて行って、むつ市の未来とか向こうのポート

エンジェルズの未来、あと、自分たちの未来とか話し合ったりとか、あとホームステイをさせていただくので、そこで一緒に過ごしたりとか、交流を深めるっていう事業を、何十年とやっているんですが、ちょっとコロナ禍で、今、いけない状態が2年ぐらい続いているんです。たまたまうちの子供が、参加をさせていただけるチャンスがありまして、行ってきた時に、やはり、行く前と帰ってきた時の、言葉ではちょっと表現できないんですけども、すごく子供が変わったんですね。すごくいい体験、体感をさせていただいて、子供に話を聞いたら、やはり、その学校の教育に関しても、実生活にしても、先ほどからこうお話出てるんですが、日本の学校教育は、ルールというものが元々先に、大人が作ったルールがあって、それに守りながら教育を受けるっていう形を取っているんですけど、アメリカの場合は、自分たちでルールを作っていくっていうふう感じた。っていう風に言っています、それでなんかこう人生観までは行かないかもしれないですけども、すごく考え方が変わったように私はすごく感じたんですね。なので、体感をする事って凄く大事なんだなっていう風に思いました。今、そういう風にインフィニティの学校で子供達が色々な体感をしていると思うんですけども、先生から見て、その子供達が入る前と今こうやって学習をしている子供達を、実際に会って話を聞いて、子供達が変わったっていうか、変化とかっていうのは感じられますか。

**大谷氏：** もう子供達はね、例えば海外ってその多様な世界に触れた瞬間に変わります。海外で本が一週間でも行かせるだけでも子供たちが変わる。まして、インフィニティは、日々いろんな多様なものを、体験してますんで、もう二か月もしたら全く別人物ですね。入ってきたばかりは、みんなさっき言った通り、先生答え何ですかって聞くんですよ。僕はどうしたらいいで

すか？私はどうすればいいですか。だから、ずっと中学校までのスタイルですけど、もう一か月もすると、校則、自分らで作って良いですか？いいよ。門限自分らで決めていいですか？いいよ。もう全部自分らで、自分事として考えるロジックに変わるんですね。さっきの納谷さんの言ったとおり、今まで与えられて守るロジックだったのを、自分らで本質を考えて、何でそのルールが必要なのか、いらぬのかみたいなことを考える思考、本来考えなきゃいけないけど、日本の教育って考えるところを奪ってしまうスタイルなんで、そこでがらっとかわる。本当、総合学習もそういうことを文科省も求めているとは思んですけど、なかなかこう出来レースというか、予定調和のプログラムになっていて、本当に価値観を揺さぶるような体系ってなかなかできない。そこを小中では、むつ市では持ってほしいな。やっぱり留学とかってお金かかるんで、全員が全員行けないですけど、さっき田中さんが言った個人資産は1,800兆円ある訳で、むつ市出身で、首都圏でお金持っていくといっぱいるでしょ。だから、ふるさと納税にグローバル教育用途っていうものの一個、もうあるのかもしれませんが、ポンと立てて、このお金で未来の子達を海外にも二週間でも触れさせます。いうのを謳ったら、多分集まるんじゃないか。もう、市長の強いリーダーシップで、お前ら金出せ、未来のためだぞって言ったら、その返礼品がね、マグロとかリンゴじゃなくてね、返礼品は子どもたちの未来です、と強くメッセージして、それを集中的にお金を集めたらどうですか。グローバル資金。となるとむつの未来を支える子供達は、しぼんでいきます。是非それでそのお金で。僕は、子供達を海外に行かせる、あるいはオンラインで日々英語に触れさせるってことをやっていただきたいと思う。

**宮下市長：** もう、それはあの私の権限でできるのもうすぐやりたいです。

**大谷氏：** はい、よろしくお願ひします。やってください。決定。

**納谷委員：** じゃあ是非、市長よろしくお願ひします。

**宮下市長：** ありがとうございます。それでは黒木委員にお願ひいたします。

**黒木委員：** 黒木と申します。先生どうもありがとうございました。大変興味深く拝聴いたしました。最初に感想を申し述べさせていただくとすね、途方に暮れているっていうのがまあ正直な感想です。私、実は三年前まで東京で博鳳堂という会社に勤めておまして、あの仕事の内容自体は、決まり切ったことを破壊するっていうのが仕事だったんで。大変楽しく三十年ほど働いたんですけど。学校という組織と言いますかですね。そこで、どうやったら先生がおっしゃるような、ルールに拘らずにルールを破壊していくようなゲームチェンジャーが育てられるのか？っていうのが、やっぱりちょっと途方に暮れるところがあるんですね。テレビ番組です、先生ご覧になったことがあるかどうか分からないですけど、博士ちゃん番組やっています。小中学生で例えば異様に昆虫に詳しいとか、昭和家電の専門家とかっていう子供が出てきて、プレゼンテーションするっていうような番組なんですけど。それを見ていて思うのが、一つのことに関心を持つと、以上に他の能力も上がっていくってことなんです。例えば、国語能力がもう大人顔負けの国語能力に育っていたりですね。そういうのって自分が仕事をする時にも似たようなことを、自分もそうだったし、周りの人間にも感じていたんですけど、やっぱり何か興味を持ってそこを突破しようとすると、他の能力がこうなんて言うんですか、相乗効果で引っ張り上げられて上がっていくっていうのを何度も実際に目にしている、やっぱり楽しくやるっていうことが大事かなと思うんで

すけど。そこにその小中学校という組織っていうものになっちゃってるっていうのが、そこを突破するには、先生はそれで学校作られたと思うんですけども、小中学校でそれをやるには一体どうしたらいいものなのか？っていうのが、ちょっとアイデアがこうあまりパツと浮かばないといういかがでしょうかというところです。

**大谷氏：** はい、ありがとうございます。最近、良い議員立法の法律ができて、教育機会確保法。小中でも、前、不登校は学校に戻せっていう文科省の指導だったんですけど、もう戻さなくていいよという通達も去年改めて出て、ホームスクールとか第三の学び場、いわゆる東京というフリースクール、ああいうものは文科省は出席認定それで出しなさい、もう指導を出したんですね。そこに連動したオンラインのホームスクールとかフリースクールの学びツールがいっぱい今出てきて、しかも文科省以外の経産省指導で出てきたんですね。これを活用すると、そういう個性強い、発達障害であったり、学校に窮屈に感じて自分の個性を伸ばしたい子は選択肢が増えたんですよ。今の現状ですと首都圏はフリースクールがその仕組みを使って義務教育でも出席認定もらいながら個性を伸ばす学びをしてんですけど、むつ市はフリースクールあるのかなのか分かんないですけど、僕はむしろそれをちゃんと研究して後で資料送りますので、むつ市ならではのそういう学び場を、オンラインを使って、学校行かなくてもちゃんと学力保証と出席認定できる仕組みで、どんどん個性を伸ばす仕組みをやれば良いと思いますよ。もっと言うと、全国にそういう不登校の子はもう三十万とかいますんで、山村留学と合わせ技でむつに大自然豊かなむつに、山村留学しながら窮屈じゃない学びもやりませんか。良ければ地元の中学校、小学校に在籍しながら学校行事は来てくださいね、これの時は来てくださいね、みたいなもうやると現代の抱えている課題解決

にもなるし、首都圏から個性ある子が山村留学でむつに来る可能性がある。あと、学籍の移動が自由になったんで、一学期は東京、二学期はむつっていうのは自由に出来るようになる。これはもう保証されてるんですね、なので1回夏だけ二学期だけむつで体験して、良かったらそのまま学籍移動させるかっていう施策もできるんですね。徳島県でもこれを大々的にやり始めてなので山村留学とか義務教育のえ？連携あと高校だともっと楽で、どっかの高校を一部通信制を併設にしちゃえばいいですね。そして自由に個人の活動をしながら併設の通信制で卒業という仕組みも作れます。なんで、そういうもうちょっとこう合わせ技で、今ならではの、新しいむつの魅力ある学び場、どんどんもう作ったらいいと思いますよ。いや、作っていいですよ。別に何の法律に違反してませんけど。ちゃんと調べると教育機会確保法で保障されてます。今までは、みんな学校戻さなきゃいけない。29日目に教室に連れて行かないと不登校になって怒られるみたいな。そういう先入観、みんな先生、必死に学校に連れて来ました。恐らくいいよ、家でちゃんと学びはオンラインで管理してるから大丈夫だから。ちょっと脱線しました。だから、工夫次第では何でもできますし、僕、その辺の資料も全部ありますので、全部提供します。

**黒木委員：** ありがとうございます。

**宮下市長：** そうしましたら、最後に阿部教育長から願います。

**阿部教育長：** はい。阿部と申します。今日は本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。お話を伺いながら、中学校の先生三十八年間やってきたものとして反省しながら聞いていました。また、言い訳を交えながらお話をさせていただきたいと思います。まずは、おっしゃったことと同じことを違う視

点から聞いていたんですけれども、教育は未来への投資とよく言われるし、僕もそれはその通りだと思います。ただ、私自身は先生なので、未来への投資というよりは、子供達の幸せのために、今教育が変わらなければならない。そんな風に思っています。子供達の未来は子供達自身のものなので、そういう意味で今日提示された課題っていうのは、我々教員が決して避けることの許されない課題だと思います。これから子供達が生きていく上で、必要不可欠なことなので。お話の中で嬉しかったことが、日本の中学校教育の数学のレベルが非常に高い。そして英語に関してははっていうようなお話もありました。英語に関しては、私は理科の先生なので門外漢ですけれども、日本の英語教育はどうしてもこうコミュニケーションツールというよりは、学問としての側面が強調され過ぎているので、そこは、これから考えなければならないのかなって思っています。幸い、本市の中学校ではこういうことをプランニングしている学校さんがありまして、あのALTに複数が来ていただいて、オールイングリッシュデーを作りたい。実現するかどうかはまた別なんですけど、朝から晩まで英語以外は喋れない。そういう環境にイマージョンで放り込んで体感させたい。凄くいいなって思って聞いていました。この辺境むつ市でも、そういうプランニングをして子供たちにそういう体験を与えたいと思う教員が学校があることは是非お伝えしたいし、私、どもそれを力として色んなことに挑戦していきたいなって考えています。よく言われるように日本人はいいよって書いてないことはやっちゃ駄目だと思ふし、他の国はダメって書いていないことは何をやっていい。この差はやっぱり幼少期からずっと培われてきたものだと思うので、我々子供達に接する人間がその感覚をしっかりと一度問い直して、さっきおっしゃったように、解のない問いが与えられてる時代なので、その時代に即した対応、我々が子供達にしなければならないのかなと思います。おっしゃっていただ

いたことその通りだなと思ったのが、教えるんじゃないくて動機づけをしてほしい。体験したい、学びたいっていう動機を与えれば、子どもたちは自分で調べる人ですよ。その通りだと思っています。実際これは我々のずっと言われてきたことでもあるし、我々の業界で二十年前に内容知ではなく方法知だよって言われた時期があります。要するに覚えることじゃなくて、どうすればその答えが見つけれられるかっていう乱取り手順、そういう手段を身につけさせるのが本当の教育だよって。実際に20年前はみんなそう思ったし！今もそれは生きているので。そういう古いけど、でも我々が到達し得ていない手法をもう一回見直して、そうすれば今日提示していただいた解に近づいていくのではないのかなと思います。そして、先程のオールイングリッシュデーではないですけれども、いろんな機会を子供達に提供して、まずどんな小さなことでもいいので。できた、楽しい。そういう体験を与えられることを模索して、そして、そこを突破口にして、子供達が自ら学んでいけるように。新しい時代が困らないようにしていきたいなと思います。

実は、ご質問したいこととして、ある程度の規模の効率化あるいは広範の範囲で、進んでいるような施策政策、あるいは、先生からご覧になってこれ良いよ。っていうものがあれば教えていただきたいという風に問うつもりでいたんですけれども、お話の中で、資料たくさんあるので後で送るっていう風におっしゃっていただいたので、是非それを一生懸命読んで、そこから学びたいと思います。子供達に答えのない問いを与えなければならないので、自分が答えを求めては申し訳ないので、自分でそこから探したいと思います。本当にありがとうございます。

**大谷氏：** はい。ありがとうございます。本当、是非、問いを立ててみてください。それと勝手にこう頭が回ると。答えを求めると、それを探し

てしまうだけ。考えないで教育長から問いを立てて見てください。偉そうに言ってすみません。本当、教育現場の皆さんには頭が下がるんですけど、とは言ってもやっぱり、なんかもう手を打っておかないと、もう間に合わない。僕はもう間に合わないけど、子供達にが間に合わない危機感を。やはり、こうできないこととできることあると思って、その選択肢を増やしていくしかないなと思うんですよ。さっきの不登校の子は不登校を戻す、元に戻す、従来戻すんじゃなくて、不登校の子に与えられる選択肢を模索するとか、地方からの山村留学生を集める手法を探して、それをプラスする。そういう現状の公教育を変えるっていうのは、現状の公教育、徐々に変わりつつある公教育にプラス選択肢を。今のオンラインならではの、あるいはこの今の国の施策のリモートワークとか移住施策にもくっつけられるそれは。プラスしていく発想、組み合わせの発想が僕は必要なと思います。やっぱりちょっと現場はね、変えられないし、変わらないし、すごいやっぱりストレス、お互いに先生方にささると思います。だから、そこを消すんじゃなくて、プラスしていく発想が良いと思います。

**宮下市長：** ありがとうございます。お時間は超過しつつあるんですが、あの会場から、もしあれば。

**大谷氏：** あの僕は全然大丈夫ですよ。

**宮下市長：** はい先生ありがとうございます。

**事務局：** そそれでは会場の皆様から感想、質疑と賜りたいと思います。お時間の関係上お一人のえっとご質問とさせていただきます。なお、発言の際はお名前をお聞かせください。それでは質疑等のある方は挙手をお願いいたします。どなたかございませんか。

**大谷氏：** 日本っばいね。大変、海外だともう本当一時間ぐらい続けました。

**宮下市長：** 私から、じゃ最後一言ですね、お礼かたがた申し上げたいんですが、今日、色々なお話を聞いていて、すごく思いついたことがたくさんあってですね。これはしっかりとあの具体化していきたいという風にも思います。少なくとも、ふるさと納税の話はすぐにもととりかかりたいと思っています。これから、私たち、ビジョンとしての教育大綱をまとめていくという作業にもちろんなっていくんです。今日のお話っていうのは、かなりそこにも大きな示唆をいただいたと思いますし、ただそのビジョンだけじゃなくて、来年度の予算を経て試作っていうのもどンドンどンドンまとめていかなければいけないという立場にありますので、是非、先生におかれましては、この後も、私たちの指導方よろしくお願ひ申し上げたいと申し上げます。どうぞよろしくお願ひします。

**大谷氏：** 大丈夫です。

**宮下市長：** ありがとうございます。

それでは、最後になりますけれども、大谷先生の方から一言、激励を我々にいただきたいと思ひますどうぞよろしくお願ひいたします。

**大谷氏：** はい。今日はお付き合いいただきましてありがとうございます。また、こういうね教育の改革のコアメンバーの方とこういう意見交換が、もうなかなかね、そういう機会はないと思ひます。本当ありがとうございます。僕はやっぱりねえ、地方こそ、今だからこそ逆転ホームラン打てると思ひて。どうも、青森県って地方は駄目だ、青森型敗北主義があつて、もうだめだ、もう何もないみたいな、そういう諦めるのは美德だみたいなのがあるんですけど。そうじゃないでしょ。じっとしていても解決しない。

こここそやっぱり挑戦して逆転ホームランしか。しかも打てる。今のね、さっきのコロナで東京で働くことが全てじゃなくなった。価値観ががらっと変わったんで、リモートワークで移住する人がいっぱい増えてますので、いつもネックなのは教育なんで、移住と教育、そして豊かな自然、それをなんかセットにした魅力を作っていけばむつならではの逆転ホームランが、ほら大谷も頑張ってるし、海外で。ばんばんと。そういう逆転ホームランバンバン打てるような気がします。そういうリソースとかむつさん持っています。まあ色んな青森も八戸もあるんですけど、むつってある意味こう一国一城の独立国家的な地形的にも雰囲気があるし描けるんじゃないかな。その魅力を是非、そこは黒木さん、元博報堂ですので、クリエイティビティを發揮していただいて、むつならではの逆転ホームランストーリーを作っていただければと思います。絶対できると思います。頑張ってください。これからも、可能な範囲でお手伝いします。

**宮下市長：** ありがとうございます。コロナと教育の二刀流で頑張っていきます。ありがとうございました。

**事務局：** 大谷先生本当にありがとうございました。以上をもちまして、第十六回むつ市総合教育会議を閉会いたします。なお、本日の協議内容、経過については要点をまとめた上むつ市公式ホームページに掲載することにより、公表することといたしますのでご了承願います。

最後になりますがお手元にありますアンケートへの記入をよろしく願いいたします。受付で回収しておりますので、係員にお渡しください。本日は誠にありがとうございました。夜道になりましたのでお気をつけてお帰りください。

**宮下市長：** 皆さんありがとうございました。お疲れ様でした。

